京城日報

二月六日夕刊
（朝夕刊併せて十頁）

革命機運增大か
獨逸與國の食糧窮乏を救ふ

墺太利食糧……[illegible]……せり目下墺太利は倖に……しも何時再び爆發するやも……の爲に妨げらるゝを僞せらるゝに至らば獨墺兩國共今後益々革命的機運を增大するに至るべし（倫敦電報）

佛國食糧問題
麵麭切符制度斷行

佛國補給大臣は一月二十八日下院に於て述べて曰く佛の麥消費年額は七百八十萬噸なるが……[illegible]……額三百八十萬噸を輸入することゝ……約することゝし佛蘭西國……の輸入は合計約百五十五萬……の契約の七十四萬二千噸に對し四十一萬……八月までの契約期間に輸入……一箇月四十四萬七千噸なる……ろ三百八十五の大多數を以て……らず』と次に麵麭切符制度を斷行……

米軍獨國境に陣す

……ローレンスに陣せり（紐育電報）

波蘭軍市街占領

……ガチエフ街を占領し勞兵……を捕縛し……没收したり過激派執行委員は……係ありたる土地所有者組合は法律の保護……

勞働者勝利祝電

……名を以て芬蘭勞働階級の勝利に對し祝電を送れり（倫敦電報）

露信仰自由許可

……分離し信仰の自由を許可せり（倫敦電報）

武力解決の外途無けむ
新任駐日支那公使 莊景珂氏談

一日午前七時四十分關釜連絡船より上陸し九時五十分發列車にて東上したる新任駐日支那公使莊景珂氏は支那の政界に付き語つて曰く

▲段氏の聲望 予の日本に來れるは第二回目なり去る明治卅七年早稻田法科を卒業し爾來二箇年間東京區裁判所の司法官試補として法律の實地研究を爲し歸國後直ちに司法部民事局長に補せられ段氏内閣を組織するに當り秘書官となり爾來幾多の變遷を經て最近北京新參審判所長となり執務中今回突然駐日參事官に任ぜられたり

予は段氏の圍にありたる關係を以て段氏を崇拜するにあらず段氏の國家的聲望ある事は天下の認むる所にて明年の大總統選擧に於ては唯一の候補者として支那の約六分は認め居れり

▲北方は武力 北方が湖州の敗戰に於て云爲するも何等憂ふるに足らず更に直隷山東安徽徐州北京の各督軍より約五師團の出征を見んには湖州の恢復は誠に容易たる事ならん馮總統は南方に妥協せしならんと揣摩臆測の風説を傳ふるものあるも斯る事は毫も無し馮氏も田文烈氏等の老練家ありて意中隨分苦心しつゝあるものゝ如く彼の倪嗣冲氏が云ふ如く全部武力解決の外途なかるべし

▲此間に起ち ……[illegible]……

▲市場の期待 ……[illegible]……

幣制紊亂の惡影響
不換紙幣亂發と開原市場の恐慌

（奉天特電）滿洲の産物の大市場たる開原にては先般奉天にて發行せられたる不換紙幣奉天興業銀行の四分利付債券、東三省官銀號及び銀の避免票の流入し……[illegible]……日本側銀行は一切右不換紙幣の受入れを拒絕し支那人側にても亦一種不安の念に驅られ受け渡しつゝある現況なる爲め同地取引所に於ける特産物相場は昨今に至り急激に騰貴し不換紙幣と小洋錢票との交換差額五日午前中に於て一萬圓に達し銀紙の差三千圓……漸次市場の恐慌を來さんとしつゝあり

▲百萬圓以上に達し從來市場に流通せる小洋錢票は不換紙……[illegible]……

炭礦の紛擾と瓦斯
配當の一割……と……

……[illegible]……

▲技術の方は全部同君の……[illegible]……增配をやれば出來ない事はないのである……と云ふ者へもあり……然し總會の席上で大總社……

▲噸十七圓の石炭を焚いて製造してゐるものである一噸の石炭から瓦斯は約……を採ると一萬立方呎しか製造は出來ない、乃ち一千立方呎の瓦斯を作るに……

南方政府組織計畫

唐紹儀氏廣東に入り目下南方政府組織の計畫中なるが右は孫文氏を首班とし總務六名を中樞機關となすものなり（上海電報）

軍器第一回到着

日本より買入れたる軍器第一回到着せるが右の一回受渡しの分は山東丸、相模丸に積み込み香港に到着、砲三百二十四門機關銃數百挺小銃五萬挺、彈藥五百萬發なり（北京特電）

佛軍器工場爆發

佛國のモーラン軍器製造工……爆發せり（倫敦電報）

奉天財政窮乏

奉天省は財政の窮乏最も甚だしく昨年六月の兌換協定に依る一日四萬圓の制限兌換も今回之が中止を申し込める爲め奉天日本人側の金融調節委員は五日會合協議する處ありたり（奉天特電）

九州沖繩聯合共進會
朝鮮館列館を設く

來る四月十日より五月九日迄卅日間……[illegible]……

北部……道……會

……[illegible]……

赤十字社總會

……[illegible]……

間島財界恐慌

▲押收……處分 ……[illegible]……

▲急激に出て ……[illegible]……

▲……は一變 ……[illegible]……

人事消息

▲李根澤子爵 五日夜京城より入京 ……[illegible]……

大阪たより
製粉界の前途

……[illegible]……曹達工業……（大阪支局）

木浦

木浦驛成績 一月中の……成績を聞くに乘客七千二百五十人降客六千七百五十九人貨物發送千二百十六噸到着……[illegible]……

▲貝釦業者不振 上等貝……[illegible]……

▲……交換……一月中の……[illegible]……

▲洋紙相場強含 洋紙界は……[illegible]……

時間表

[illegible]

謎の佛國美人
興味ある故秋山海軍中將の逸話

萬民に惜まれて逝かれた秋山海軍中將は松山の人で、秋山陸軍大將の實弟である事は世間周知の事であるが、其

少年の頃 松山中學に學び、此學校を卒業して直に海軍兵學校に入學したのであつた。中學でも、又兵學校でも非常の俊才であつて、いつも級の首席を占めてゐた。中學時代の同級生に故正岡子規があつた。中將と子規とは

莫逆の友 で、志ざす所を異にしたるに拘はらず其親交は始終變ることはなかつた。中將は天才の人で、海軍人多しと雖も其傑出、殊に軍略を機に應じて案出するの點に於ては及ぶ者が無かつた。生時代に於ても

試驗前に 特別に勉強するといふ事なかりしが如く、日露戰爭中東郷大將の參謀たりし間に於ても、悠々として圍碁を弄び更に考慮するが如き樣子はなく、閑暇に智略妙計を立てたといふ中將の明察を證する興味ある逸話がある。殊に官命を受けて

歐洲戰線 を視察したる際、佛國が英國より軍需品特に石炭の供給を受くるの最莫大にして、佛國は如何にして其代價を拂ふやは何人も解き得ぬ謎であつた。然るに中將は盛裝したる佛國美人の陸續として英國の戰線に行くを視て、佛國の英國に拂ふ

石炭代は 此等美人の手によりて回收せらるゝのであるとの斷案を下した。事實其通りであるそうである。中將の文に巧なるは、[illegible]の名文によりて文名を揚げたる事實によりても推察せらるゝが、其歐洲戰線より歸り來し際、諸新聞に現はれし

觀察談は 中將が海軍省へ復命の途中自動車上に於て[illegible]を偸みて[illegible]を走らしたるものであつた。然し中將は其談話の誤りを傳へらるゝを恐れ、自ら筆を下されたのであつたが、其かく匆々の間に成りしにも拘はらず、[illegible]燦然たる一大文章であつたには新聞記者をして舌を捲かしめたさ[illegible]

故秋山海軍中將の遺墨

仁川の海戰記念
千歲將校招待

來る九日は第十五回仁川海戰記念日に相當するを以て仁川市民は[illegible]八日夜に於て一大祝賀會を催し[illegible]逐艦千歲の將校を招待[illegible]は全[illegible]仁川[illegible]

▲**海岸の篝火** は八日夜恰かも木浦旅艦の敵前上陸を敢行せし當夜にして市民は當時海岸に篝火を焚いて軍の上陸を助けたるが之が當時を[illegible]に記念せんが爲め州廳に於ては當夜稅關構内[illegible]棧橋附近及び仁川神社の丘上に篝火を焚すべし

▲**學校の講演會** 記念日當日各學校は[illegible]

梅一輪
▽近頃の教育法は
遞信局通信課長矢野義二郎氏夫人のおはなし

南山の下を潛つて流れ出た溪流はちよろ〳〵とせゝらいで子守唄の樣な水の音微かに、嬰兒の夢を圓らかな夜に守られて居る。大和町三丁目遞信局の官舍は平和な[illegible]遞信局通信課長矢野義二郎氏夫人はしめやかに閉された客間に微笑を含みながら『私も大久保さんと同郷で伊豫の今治でございます』

●昨冬は子供を連れまして内地で冬を越しました

瀨戸内海の風景はやはり何とも申されませんネ。綺の樣な島々に一面桃の花が燃え立つばかりに咲き亂れてそれが内海の靜かな水面に映りました所を船で通ひます趣き[illegible]は迚も見ない方には想像も出來ません」小綺麗な落着きのある夫人の美しい眸は憧憬の島影を見詰めるかの樣に床の間の方に走る。其床には[illegible]の鮮製が素知らぬげに伸[illegible]いて不平そうに瞬[illegible]

●一番上は日之出學校の一年生になりました

[illegible]子供は只今男の兒が三人居りますが皆小さいので中々手數が掛ります

長男を一昨年亡くいたしましたが彼兒が數年前に學校を參觀させて頂きましたので、よく其學校の教育法は[illegible]した所が近頃の教育法は[illegible]時代と選びまして先生方も大變ご熱心で被居ますから結構だと存じます。育兒法と申しましても何も變つた考へはございません。もう大抵は好き樣にさせて居りますし、お八ツなども制限を致しましたり時間をきめるとか云ふ樣な事も致しません[illegible]三人の男の兒等、自由と平和との祝福を受けて多幸な前途に雄々しく[illegible]。寫眞はきよみ夫人と左より長男一勇君、次男新夫君——（つゞく）

原因全く判明せず
旭町一丁目の深夜の火事
高井文學士燒死す

六日午前二時[illegible]旭町一丁目[illegible]

◇**當時の模樣を聞く** [illegible]

◇**高井氏の家族は** [illegible]

進行中の列車内で馬賊に殺害さる

[illegible]

官印僞造から全罪發覺

[illegible]

讀者文藝

[illegible]

◇**睡眠藥を服して** [illegible]

◇**黄金町の小火事** [illegible]

▽二階から出火した場合は
多く燒死者を出す

▽**一夜の中** [illegible]

▽**二階から** [illegible]

▽**一人寢は** [illegible]

▽**綱を下げ** て置くやうにし、出來得べくんば二階には煙突や瓦斯ストーブなどを置かない方が安全である。次に多くの人に注意して貰はねばならぬ事は本町四丁目八反地方の嬰兒の燒死に就いて見ても嬰兒を一人で炬燵に臥させるのは

▽**甚だ危險** で炬燵は五六度の低温度でも布團で密閉して[illegible]

[illegible]業する時には首席だつた▲同期生には傑物が多く中將に次いで[illegible]三番の森山慶三郎の諸氏[illegible]何れも目下少將級の人物として知られてゐる▲その秀才振は[illegible]早くも中將に進んだ[illegible]

運給船上陸客

五日午前[illegible]釜山入港新羅丸二一二等客[illegible]

文藝課題及び募集規定

募集規程

▲用紙は端書又は同形の用紙一枚毎に雅號又は姓名の外に住所氏名明記の事▲一等に五十錢督辨券を呈す▲賞品は一等[illegible]

商況

東京期米特電 [illegible]

兵庫期米 [illegible]

大阪三品特電 [illegible]

大阪株式特電 [illegible]

大阪期米特電 [illegible]

下關期米特電 [illegible]

雜穀 [illegible]

◇**人氣軟弱** [illegible]

◇**白米下押す** [illegible]

◇**花子安氣配** [illegible]

◇**大豆高氣配** [illegible]

◇**片栗粉强硬** [illegible]

◇**米鐘レリ高** [illegible]

下關相場 [illegible]

◇**綿糸布低落** [illegible]

◇**正米持合ひ** [illegible]

雜持に努む [illegible]

苦痛忍價格 [illegible]

仁川正米 [illegible]

釜山穀物（五日） [illegible]

南大門廻米 [illegible]

市場雜觀 [illegible]

期米暴落す [illegible]

仁川期米 六日前場（暴落） [illegible]

仲買店 [illegible]

天氣 [illegible]

小賣白米 [illegible]

白米標準値 [illegible]

大阪期米 [illegible]

平均値段 [illegible]

新發明の御食器

五時間までは同一の温度を保つ

◆兩陛下朝夕の供御に

漏れ承はる所によると天皇皇后兩陛下の御前に朝夕大膳職より捧進せらるゝ供御は昨今の時候でも

△調理した際の通りの温かさを五時間迄は毫も變らずに保たせる事の出來る新發明の御食器を用ゐる現に目今葉山の御用邸にても温かき御調理には其御食器を用ゐさせられつゝあるとの事、コハ兩陛下の御料に供し奉るが爲めのみに調製されたもので全く宮中

△大膳職唯一の御器たるうである畏れ多き事ながら先帝陛下の御頃も御同樣で大膳職で調進し奉つた供御が大奥へ捧持されて提き御前へ奉進に相成る迄には何分壯大な宮城の御建造物の事とて可なりの時間がかゝるので毎度既に冷めかゝつた次は多く

△冷めた調理をそのまゝ差上げなければならぬ、今上陛下にも同樣の御事があらせられるので侍從職、侍醫寮、大膳寮其の他波多野宮相等近侍の間に是非此の不都合を除き奉る方法を講じなければとの議が起り即ち調理の時そのまゝの温熱を保つ御食器の新工夫を專門家に下命したのが

△大正三年秋の頃其れが大正六年の暮に完成し漸く此の新春から御使用に就て居るので、此の光榮ある發明者は古くから大膳寮の御用品商の中に御器其の調進方を承はつて居る京城市銀座尾張町の洋食器商十一屋商店主木村新大郎氏である、右に就て木村氏は語る『店としても私個人としても

△非常な光榮です、委しい事は私の口からは申上げられませんが私の苦心の一點だけを申[illegible]

△色々と工夫した末先づ御下命の趣旨に近い御器を拵へ上げました其れは銀の御食器を二重[illegible]みや酒類用として保温裝置をしたものはありますが商品が一尺に近く直徑が一尺餘りと云ふ大きな食器の殊に金屬の保温裝置はまだありませんので[illegible]

△硝子は分子[illegible]

奉天の南滿醫學堂（二）

◇支那人の卒業生は引張凧
◇病院の看護人が一等軍醫

奉天の南滿醫學堂は曩にも記した通り滿鐵の經營にかゝる[illegible]

◇支那の文化に最も遅れたところの醫術を普及する爲めに設けたものである、これは獨り滿鐵の仕事としてのみならず我が日本帝國が支那と善隣の誼を厚うする爲めにも極めて重大な任務でなければならぬ、しかし支那人ばかりでは其の進歩が捗々しく行くまいと云ふところから日本人の學生をも收容する事となつたのである、現に今春募集する學生も支那人廿名日本人三十名を以て一學級をつくることとなつて居る、されば現下

◇全堂生徒數は支那人七十餘名、日本人百廿名の割合となつてゐる、而して支那人の子弟は主として奉天省、吉林省等の支那側又は日本の租借地たる關東州内の出身者による官費生が多いのである、彼等は入學して二ヶ年間は豫科に入られ此處にて充分の日本語をたゝき込まれて然る後ち醫學堂に學生たるを得るので學校の講義は

◇總て日本語で敎へられるから先づ第一に語學を習得する必要がある、醫學堂の卒業生はまだ一人も社會に出て居らぬ、昨年卒業した四人の中法庫門の成金氏の他一人は目下在學中のまゝで奉天陸軍の病院に一人は支那側醫院の外科主任心得となり他の一人も獨立して開業する準備中である

若しこれ等の人々が本年六月芽出度く卒業して支那の地方に出たならば恐らく支那の杏林界有數の人物となるであらう、何となれば支那人にして内地の專門學校に學ぶ者もあるが

◇南滿醫學堂ほどの嚴重なる敎育を施されてないからである、また外國人經營の醫學校は極めて程度低く先生も亦わが醫學堂ほどの敎授が揃つては居ない、殊に[illegible]

◇奉天南滿醫學堂の病理學敎室にて學生實習◇

◇大國手に[illegible]に昨年張作霖將軍麾下の第廿八師に入つて一等軍醫になつた實例もある、されば南支那方面は兎も角北方の滿洲蒙古地方のお醫者はまだ／＼幼稚千萬なものと言ふてよい、されば經驗ところへ

◇新らしい醫學を習得してわが南滿醫學堂醫學士がはひるので[illegible]

◇死體解剖室◇[illegible]

△其の不都合甚し[illegible]

△如才なき銀行員[illegible]

長春銀行の無法

邦人の兌換に應ぜず

長春城内に於ける中國銀行、交通銀行、殖邊銀行等が邦人の兌換に應ぜざるとの噂は數ば耳にせしなれ共今日迄未だ記者の實見せざる所なりしが去日記者は自ら中國銀行に立寄り百圓の小洋票を示して兌換を乞ひしに

△係員は之に應ぜず言を左右に託して拒絶する有樣なれば紙幣の裏面にしるせし文字を指して之をなじれば然らば何に用ふるとの云ひ分なり、記者は吉林旅行の故を語りて田舍に於て貴銀行兌換券を信用せざるが故に硬貨が欲しいと云へば、其れ程硬貨が必要なれば兩替屋へ行けと云ふ、兩替屋に於ける目下の硬貨對紙幣は百圓に付き八圓餘りの打ち歩が付き居れるを知らざるやと詰れば

△係り員は沒法子（致し方なし）と答へて平然たり、而して上記諸銀行は一回の兌換額百圓[illegible]

東支鐵道貨車激増

數日以前より[illegible]南下の貨車一日々百五十車[illegible]

△輸送禁止にてポグラニーチナヤに強制下荷品は未だ解決ならざるため該方面へ廻るべき貨物は總て當方へ南下し來る次第にして加之哈爾賓地方も同じく禁止令を執行され居るが故に哈爾賓の滯貨及び出廻品は日々百車位にては到底足らず猶ほ増加しつゝある有樣なるが滿鐵側にても貨車に限りあるなれば毎日百五十車以上の引き受けをなさゞるを以て東支線に於ても遂に受けつけざる寛城子には

△日々滯貨増加しつゝあり、移動せる貨物の種類は主として大豆、豆粕、豆油、雜穀、麥粉、牛生皮にし[illegible]

△中國銀行へ持つ[illegible]

△小麥相場[illegible]

解氷早からん

[illegible]

選手豫選會

[illegible]

國澤理事長東上

國澤滿鐵理事長は大正七年度各般の事務に關し當局と諸般の打合せの爲め[illegible]三日午後零時大連發汽船臺中丸にて東上せるが歸任期日は未定なり

種苗有無償下附

昨年八月以降鮮内居住内鮮人十三名の有償下附出願にかゝる樹苗ニセアカシヤ、モニリフエラヤマナラシ、ヘイジョウグリ一萬二千八百本價額四十九圓五十錢、學校組合管理者及び各學校長、名勝寺住職[illegible]の無償出願に依る樹苗ニセアカシヤ、ヘイジョウグリ七千百本、第一公立普通學校長の無償出願たる公共用としてニセアカシヤ種子二升は何れも二月二日附道長官より下附の指令ありたり

米［相場］（六日の四月限）[illegible]

九龍市の天然痘は猖獗益々甚しく遂に歩兵第十二聯隊に傳染する一名の患者を出せり（大阪）

△廣告

商業登記公告[illegible]

謹近火御見舞　光田村[illegible]

謹近火御見舞　帝國生命會社　京城支店

購買入札　朝鮮總督府　平澤出張所

謹近火御見舞　大野[illegible]

本朝近火の節は早速御見舞被下厚く御禮申上候　京城旭町一丁目　松秀庵　白水　電話長一七一四番　二三九一番

金銀時計製作販賣　仁川　本町　[illegible]商店

謹近火御見舞　近火の際は早速御馳付被下御見舞を辱ふし奉深謝候一々拜趨御禮可申上之處[illegible]　京城黄金町一丁目　三井物産會社　京城支店

[illegible]　京城旭町一丁目　高野省三

産科婦人科　京城[illegible]町　二宮醫院　醫學士　二宮亮吉　電話一二〇一番

良家の化粧料　には素顔美を發ふ美顔ユーマーが多くは殊に多く賞されてゐます

外科皮膚科　瀬戸醫院　京城旭町二丁目　醫學士　瀬戸[illegible]

懐中要藥　清心丹　高木與兵衛

本朝類焼の際は早速御馳付被下御厚情奉萬謝候混雜の際御尊名相漏らし候やも不計取不敢以紙上御禮申上候　秋田商會出張所

△入門者募集　△出張稽古開始　大人指南　佐藤部[illegible]

大島紬　山形屋呉服店

男の生殖器病　眞空療法研究所

文學士[illegible]儀六日午前二時死去致候間此段御通知申上候　大正七年二月六日

[illegible]中西[illegible]太郎

東洋一[illegible]の魁　サクラ屋

胃つき[illegible]

左甚五郎

桃川如燕口演
浪上義三郎速記

第百六十一席

兵藤平内三浦小次郎は義兄弟となつて吉也組といふものを取立て、朝夕吉原へ入り込んで弱きを助け強きを挫く侠客肌、亂暴者を取押たて大門外へ突出すといふ譯でございます。から吉也組の評判は宜うございます、八公熊公吉公と三人集り一口飲み始めると直に兄弟分になる、渡るのも早いが廢すのも早い、甚・内に一人歸つてしまふと吉・龍の前だがあの野郎は吝嗇で話しの卸からねえ野郎だ、あんな奴と心底兄弟分になる奴があるものか、お前とは別段だせ』と云つて居る内に熊公が歸つてしまふと、女房に對ひ 吉『ネエおかね、熊公だッて譲せる奴じやアねヽ誰が彼奴等と兄弟分になるものか』と云つて吉公が表へ行くと、女房が隣りの内儀さんに對ひ かね『ねヽお隣りのお内儀さん、三人であんなことを云つて居るが、あの内で一番良人が吝嗇ですよ』と云つたが、影へ廻はつて惡口を利くやうでは兄弟分でも何でもございません、兵藤三浦の兄弟分は生れる時は違つても死は與にしやうといふ固な義兄弟でございますから、何か事ある時には吉也組に力を添へます。町奴等に交際て居りますが、兵藤平内或日向兩國まで用事があつて兩國橋へかゝつて來ると後方から聲を掛ける者がある、何者かと思つて平内が振り返つて見ると目明の出入をして居ります小船町の藏商石川六兵衛といふ者、平内は『イヤ誰かと思つたら石川さんか』六『先生何方へ』平『鳥渡向河岸まで用達に參つたので』六『如何でございます御用が無ければ手前にお交際下すつて青柳まで行らしつて下さいませんか』平『別に用は無いが然し又貴下の厄介になつては氣の毒だから』六『そんなことは何うでも宜うございます、さア入らつしやい』と六兵衛は平内を伴れて河岸の青柳といふ料理屋へ參りました。青柳ばかりではない何處の料理屋へ行ても此の石川を知らない者はない、女中は甚度へ出で 女『オヤ石川の旦那で居らつしやいますか、さ何うぞお二階へお上り下さいまし』六『酒殺は世話をやかすね、今日は兵藤の旦那をお伴申したから何か旨い物を上てくれ』

女『畏りました』と女中は下へ降りたかと思ふと間もなく酒肴を持出し、大勢の女共が其處へ來て待遇をする、酒は一杯にして人酒を飲むには六兵衛も平内も大酩酊 六『さアさうなつたら馴染の藝者を呼ばなくつては面白くない、藝妓幇間を呼んでくんな』口をかけると間もなく藝妓幇間が四五人繰込んで參りまして飲めや唄へと大騷ぎ、座敷では昨から隣り座敷を空けさせろ 女『何うぞ此お座敷で御承知を願ひます、御覧の通り隣り座敷は塞つて居りますから』○『塞つて居るのは其方が云はんでも判つて居る、隣りの奴等を追拂つて我々をあの座敷へ入れろ』女『何うも然ういふことには成り兼ます』○『怪しからんことがあるか、一體隣り座敷の客といふのは何者だ』女『小船町の石川さん、それに兵藤平内さんでございます』○『何に、石川といふ素町人と兵藤といふ痩浪人か、こんな處へ來て藝妓なぞを揚げて騷ぐなぞとは怪しからん奴だ、強ていかんと云へば拙者が參つて引立てくれる』と呼はる聲は隣り座敷へ聞へまする

牛乳 御用 京城東四軒町 岡野牧場 電話一〇六九番

京 本町 ... 出張所 [illegible]

二月八日 九星 舊十二月廿七日 甲申 本命二黒 ... [illegible]

月經新藥レスブリン ... 常盤藥院 [illegible]

演藝案内

京城本町 壽館 電話一〇五〇 新劇 ... 喜劇 ... 松井天外出演 ... [illegible]

本町五丁目 稻荷座 浪花節身振芝居 市川團之助一座 ... [illegible]

浪花館 明治町二丁目 電話二六〇番 京阪落語若手一座 ... 浪花節 ... [illegible]

四大映畫愈現る 有樂館 日出の國 良人の仇 新派悲劇 終の電話 松竹梅三人娘 ... [illegible]

黄金館 電話二六三七 ... [illegible]

壽座 ... [illegible]

大正館 電話八七三 ... 「日出の國」... [illegible]

寒夜に一服 女のくすり 命の母 服めば癒身還まる 本舗 東京 ... 笹岡藥房

五百組限り大見切 上等鼠毛布 不思議 ... 輪進呈 ... [illegible]

... 八千代商會 [illegible]

募集 ... 自動車 ... [illegible]

職業 ... 上田總本店 [illegible]

りん病 日本一 自宅器械療法 生殖器障害も同器で治る ... 無代進呈 [illegible]

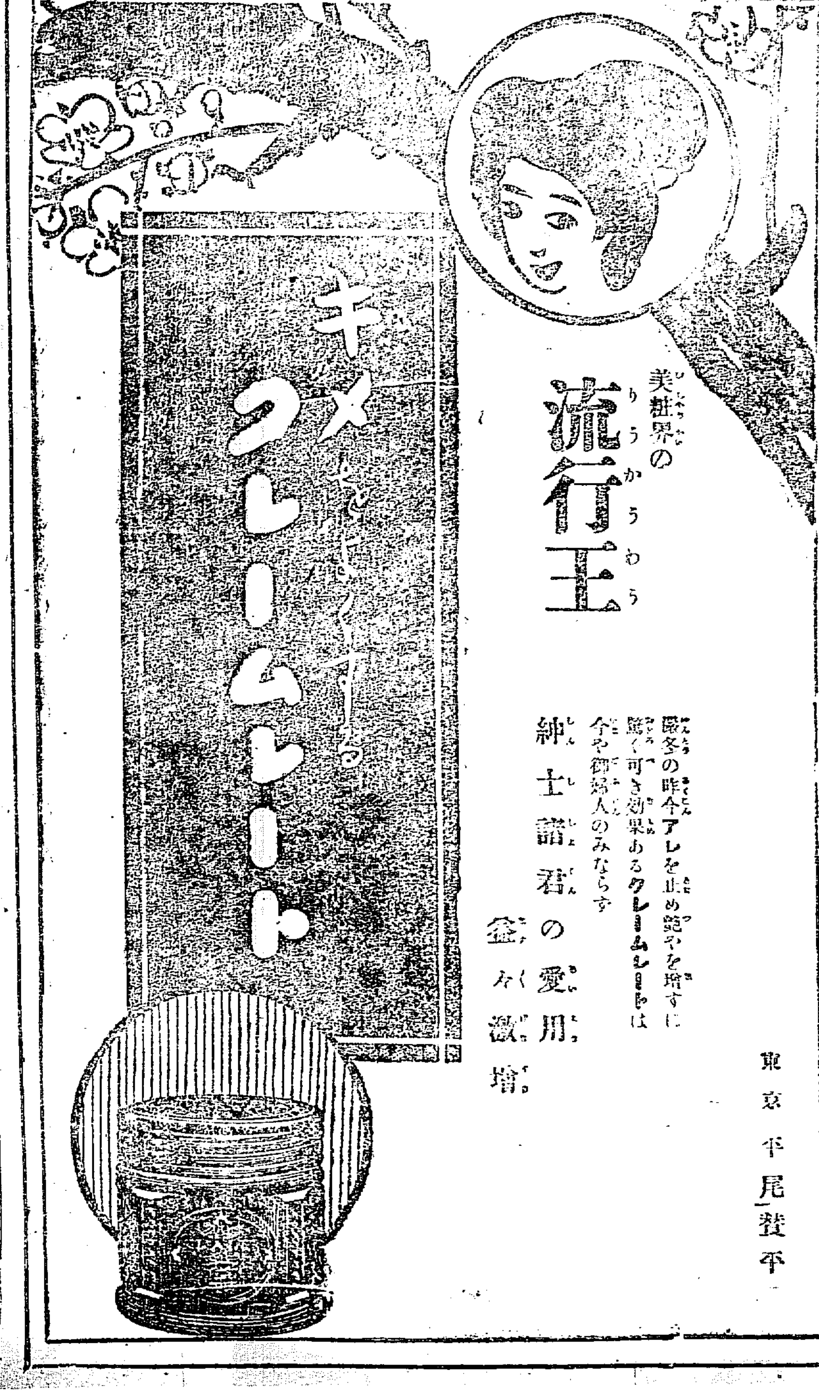
▲書籍御案内▼ 修學行商日記 紐育市の地所 ... 京城日報代理部 京城太平通一丁目 振替口座京城三〇六番

小說 ... 文館 [illegible]

醇良無双清酒 無害衛生品質無双 釀造元 首藤合名會社 發賣元 首藤京城支店 京城府黄金町二丁目 長電話一一七一番 首藤釜山支店 釜山幸町 長電話三四三番

診察時間 ... シメノウチ歯科醫院 電話八一二番

賛化病院 京城明治町一丁目 内科 小兒科 入院隨意 無料施療 ... 醫學博士 上野 ... [illegible]



大日本政府登録商標 "PINE"
愈々書き具合能しとの定評を得たる
パイン萬年筆
萬年筆の眞價はパインを除き他に知るべからず
發賣元 京城太平通一丁目 振替京城三〇〇番 京城日報社代理部 電話三一六、六六〇 構内一八番

汽車 (時刻表) [illegible]

京城日報
第五版
二月七日朝刊（朝夕刊併せて八頁）

遊支偶錄

蘇峰生

(廿五)如何にして支那を利用す可き乎

然し予は日本人側よりも、支那人側を利用せよと云はんと欲す。地理の關係よりするも、人種の關係よりするも、言語風習の關係よりするも、日本の支那に於けるは、英米諸國の支那に於けるよりも、其の便宜多きは言ふ迄もなし。

然るに其の便宜を利用せざるは何故ぞや。予は如何にも口惜しく思ふ也。予の所見によれば、日本人の支那に對する、未だ浮調子たるを免れず。言ひ換ふれば、眞面目なる研究が足らぬ也。若し從前の遣式に、或る刹那に、或ずを掠めて去る迄ならば、如何樣とも差支なし。然も眞に日支の經濟的同盟を作し、長く久しく支那の資源に賴らんと欲せば、先づ根本的に其の思想と、態度とを一變せざる可らず。即ち支那を他國と思はず、自國同樣に考へ、支那人を他人と思はず、同胞同樣に考へざる可らず。而して更らに支那を歷史的、社會的、經濟的に研究し、支那人の心理情態を研究し、他迄も其の滿足を得んことを勗めざる可らず。更に一步を進めて云へば、支那に對して、自ら一大重責を負擔するの決心、覺悟、準備、實行なかる可らず。

蓋し經濟的同盟なるものは、單に經濟上の事柄のみにて、其の目的を達し得可きにあらず。實に經濟的同盟の效果を擧げ、且つ永久に之を把持せんと欲せば、政治上、軍事的、教育的の幫助は勿論、思想的、感情的融和、共通を、必要とせずんばあらず。

人或は曰く、支那は鐵と棉花の供給國也、日本は鐵と棉花の需要國也。彼の有餘を以て、我が不足を補ふに於て、何かあらむと。斯る淺薄なる了見にて、事を成さんとすればこそ、意外なる失敗をも來たすかれ。吾人は須らく深刻、痛切に考慮せざる可らず。

戰後の海運 競爭に對する各國の準備(二)

戰後獨逸の海運業者は何れも將來を悲觀し過去に於けるよりも更に熱烈なる政府の援助あるにあらざれば、有力なる發展は之を期する事難しと爲し意氣銷沈を極めたりしが昨年に至り政府の海運業者の新造船に對し利益保障を約するや俄然活躍を開始し新船の註文續々として現はれ既に昨年北獨逸汽船會社は三十五萬噸、漢堡亞米利加會社は三十六萬噸の建造に着手せりと傳ふ。然るに其の後獨逸に於ては海運再興に對して更に有力なる援助を必要とするの論議沸騰し是が主張者たる一記者の說明に依れば戰前五百萬噸の獨逸商船中二百萬噸以上は敵手に落ちしもしつゝあり更に百萬噸以上は同盟國又は中立國の港內に繋留せり加ふるに物價騰貴の爲め建造中の船舶に對しては法外なる代價を支拂はざるを得ず斯る難局に處するの道たるや唯莫大なる國家の財政的援助に依賴するの外なしと玆に於てか獨逸政府は終に新法案を立つるに至れり同案に依れば獨逸の船主は其の建造の進捗に比例して累進的直接補助金の交付を受くるものにして

▲締結後三箇年以內に就航する船舶に對しては年時價格の六割乃至八割、四年乃至六年間內に就航する船舶に對しては四割乃至六割、七年乃至九年間內に就航する船舶に對しては二割乃至四割の補助金を受くるものとせり、尙は新法案中には外國に抑留せられたる船舶及失踪船舶に對する補助規定の外右補助金の下に建造又は修繕せる船舶は、其の完成後十箇年間外國の特許人に賣却するを得ず且政府の特許あるにあらざれば十箇年間外國と傭船又は運送契約を爲す事を得ざるの規定を含むものなり要するに同案は從來世界に其の比を見ざる大規模の補助金制度たるなり獨逸が右の如き補助金政策に武裝されて戰後其の貿易の『マニピユレーション』に成功するや否やは一に英國人が其の海運業の利益の爲に採る所の政策如何に關する事大なりと雖、亦來るべき平和條約の如何に係る所少なしとせず

▲聯合國は宜しく獨逸をして不法に擊沈せし船舶を賠償せしむると共に獨逸船舶及び貨物に對し我港灣及び市場に於て彼等の政府又は「シンヂケート」より補助さるる補助金若くは發賦金に相當する額の特別課税を負擔せしめざる可らず

二、米國

玆に特記すべきは今日聯合國の海運に對する異常なる援助として盛に歡迎され頗て敵縱の威嚇を緩和しつゝある米國海運界の膨脹は必ずしも

△現戰爭の生める結果にはあらざるの一事なり既に戰亂勃發以來米國海運業に投下されし新資本は五千萬磅に達し更に聯邦船舶局(Federal Shipping Board)は顧問會を通過せし船舶購入法(Shipping Purchase Act)の規定に從つて組織せられ船舶の購入及同局運用費として一億二千萬磅を使用する權限を附與せられ更に最近同金額を二億五千萬磅に增加せんとの提案を見たるが尙ほ政府の造船所改良擴張に投じつゝある金額は頗る巨多に達せると共に私設造船所も亦數千萬の投資を見つゝあるなり而して斯くの如き大發展は戰亂に依て進捗せらるゝに至りしは勿論なるも戰亂に依て始めて開始せられしものにはあらず戰亂とは何等の交涉なくして既に開戰以前に於て著手を見たる海運隆盛を期せる

▲國民運動に基因せるもの

△國民運動に基因せるものなる可きなり既に戰亂と關係なき國民運動の結果として發起せし海運業の擴張が將來（英人）に下間せし一の大敵となりて來は下は拾く十九世紀の初期に於けるが如きものあるに至るは疑ひ餘地なき所なり（朝鮮郵船會社調查）

青邱詞苑

北遊雜吟 立花小一郎

洗劍亭三首 蝴碧

下馬來臨洗劍亭。孚前空水帶朧。英雄義士今黃土。唯有苔碑一片青。

虎嘯在風毛骨寒。一天飛雪白漫々。九部遺跡何邊是。淳上回顛仔細看。

陰霧蒼茫天未明。碧流嗚咽老龍聲。九原獅開大王志。洗劍亭前連城。

過黃水

白草原連枯樹林。朔風吹雁日將沈。勸君鞭策且休急。雪沒馬蹄三尺深。

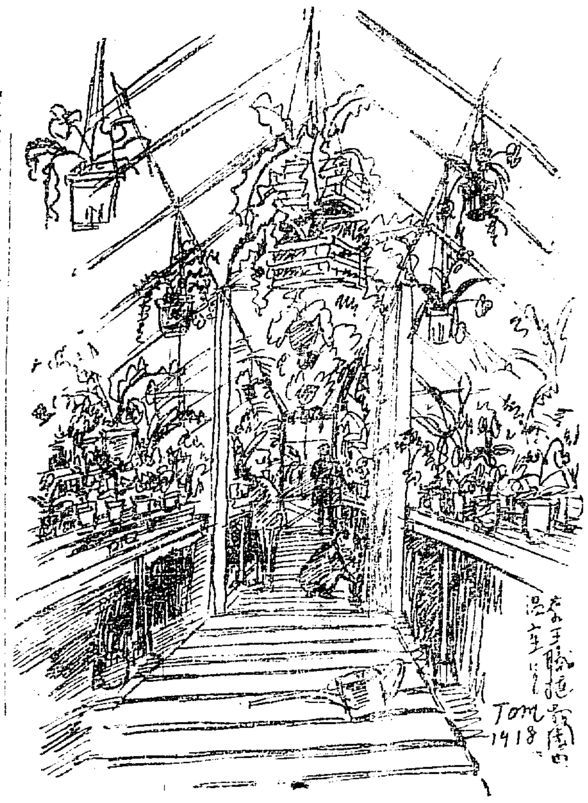
自開山到金昌

山村水郭雪漫々。亂噪飢鴉暮色寒。行到鳳江江盡處。一輪氷月六於般。

新坂二首

鴨綠江頭賈客家。三州楚女麗於花。朝迎樵客夕漁叟。又見夏陽迎筏爺。

孩子在懷飢且寒。姿身病弱言生難。惹來夫背何時歸。泣向鄉天滯水干。



冬の温室（李王職植物園の温室） 石田富造筆

どうして

布施生譯

六十三

探偵長との相談を濟まして閑柄は自分の宿へ還つた。宿は前にも云つた通り戰國飯田町の赤坂溜池方面にある。閑柄は戰敗目來の將來で自分では觀ねないのであらう、流行に果然となつて居たのであらう、思はず廊下を駈け上つて、自分の部屋とは背中合せな方に這入つた。宿の部屋を間違へた先は盆いうとした。閑柄は自分の部屋とは違つて居るのだらうと云ふのでもあつたらう、部屋は中から鍵が掛けてあつた。おやと思ふと同時にはつと氣がついて先づ言かつたと階下を見下すと忽ちくざと踏附けたものが有つて足の下でぽつりと碎けて、閑柄は職掌柄さんな些細な物でも見逃さない性癖に從つて廊下の燈に照して見ると、それは赤い硝子の一片であつた。見る所普通の人には何でもない品ではあるが閑柄は不圖電光のやうに思ふ事があつた、飛んだ所で飛んだ手懸を得たものである。實は先達て武烈共の後を追うてヴエシネの田舍に往つた時例の宿屋に瞞されの宿屋を探險して闇から戶口に赤い白張で丸がつけてあるのを見た事がある、其の時は何の氣にもとめず歸つてから外の事は詳しい報告をしながらも其印の事だけは全然忘れて思出しもしなかつたが、今白張を拾ふと共に彈かれたやうに考へは其處へ移つて、同時につい先日宿の主婦から聞いて聞き流した話で俄に大した意味のあるものとなつて頭に浮んだ、成程さう言へば宿には新しい下宿人が出來て確か女連れの男二人と言ふ事だつたが何では實は其客には大層何して居ながら支那の綺麗なのに惹かれて泊行に斷りかねて居ると云ふ話であつた。

そう思付くと閑柄はそれを尋ねる種にはして置くのやうに思はれても部屋の前まで這入つて來た。其の宿屋の部屋は閑柄の部屋よりも奧の方で、成る程其の部屋にはさ何もない樣で闇から一寸も覗いて見た、それ程普通の部屋らしく別に目につくやうな品も見當らなかつたが、其中に一先づ自分の部屋に歸つてまづ何處の硝子かを見ると、先日閑柄があの宿屋で見たと云ふ赤いの丸であつた。閑柄はそれを見てはつと思はず髮の毛も逆立つやうな感じがした。もう疑ふ所は無い、それにちやあ、あの三人は應々自分を追つて來たのであつたのか、閑柄は少し呆氣に取られた體であつたが、不圖氣がつくと中では何だか立つた擧身動きも出來なかつた。閑柄は其部屋の前に何か怪しい氣色がする、閑柄はそつと戶の隙から覗いて見やうとした所ではまるで我に復つて、急いでは悪い、先方は強いうとしたが忍ぶ所では自分は非力でしかも一人だ、此場合分別が何よりと思ひ付いた。

閑柄は逸る心を抑制めて一先づ自分の部屋に退いたが終夜まんぢりともせずに耳を欹てゝ背中合せの部屋を睨め探した、もしあれが愈々自分の求める親子であつたら、一夜も寢ねて飛起きた、さう言へば其の時を待ち兼ねて飛起きたのは、今しがた門外から這入つて來た一人が、閑柄は我を忘れて飛出さうとしたが、いや待てよ、之は一つもう一應詳しく宿の主婦から探つてやらう、さう考付いて階下へ降りると下宿屋の主婦なぞと云ふ者は勉強なもので此早いのにもう臺所へ出て女中對手にせつせと朝の支度に掛つてゐる。閑柄はそつと主婦を片隅へ手招して彼の部屋の客の事を尋ねて見た。

◇鉛筆抄◇

◆膈島將軍西什（實業之世界）＝時事偶感＝鐵木眞、忽必烈、西都伯分裂、伴蕃欲米騎落前、瞰見獅正出英雄＝銚子岩即事＝銚子峽、大洋濤、雲飛來洲北、波瞰海南天、岩印須彌大袋、男兒立志遂乾坤＝征途十三勝挨及夕照＝乃紳河、尖塔石、河水滔滔長、高塔長晴霄、夕照撫紅挨及天、石列六千年前迹

▲廣告

第一學年生約五拾名募集ス
入學出願期日三月二十六日マデ
入學試驗期日四月一日
詳細ハ二月四日ノ官報ヲ見ヨ

生徒募集
仁川公立商業學校

最新刊

[illegible]

大阪屋號書店

漢湖農工銀行
大正七年十二月三十一日現在
第 回 期 貸借對照表

資本金	[illegible]
諸積立金	[illegible]
農工債券	[illegible]
預金	[illegible]
諸借入金	[illegible]
他店ヨリ借	[illegible]
假受金	[illegible]
前期繰越金	[illegible]
當期利益金	[illegible]
合計	[illegible]
未拂込資本金	[illegible]
諸貸付金	[illegible]
割引手形	[illegible]
有價證券	[illegible]
他店へ預ケ金	[illegible]
地所建物什器	[illegible]
假拂金	[illegible]
現金	[illegible]
合計	[illegible]

利益金處分
當期利益金	[illegible]
前期繰越金	[illegible]
合計	[illegible]
此ノ配當左ノ如シ	
諸積立金	[illegible]
配當金（年五分）	五,〇〇〇,〇〇〇
重役賞與金	[illegible]
後期繰越金	[illegible]

右株主總會ノ承認ヲ經候也
大正七年二月
株式會社 漢湖農工銀行

英國諸會社
米國諸會社 製品より
印度マイソール政廳直營 優秀なる

日本藥局方
白檀油
本衛印付
提供
カタバミヤ蒸餾製造所
大阪府東成郡鶴橋町
電話南五九九九番

內容大要
安蘇善四郎著
朝鮮鑛床學及探鑛法
△地質學 岩石總論 火成岩水成岩現出の狀態 岩石各論 地殼の變遷
△鑛物通論 鑛物の形態 鑛物の物理的性質 成生及現出 分析及鑑定
△鑛物特論 造岩鑛物 鑛石類 脈石類
△探鑛法 鑛石の露頭 隨鑛採鑛
△地質鑛石 地質大要 鑛石の地質的分布 各道の地質及鑛山
附錄 ▽鑛石分析及鑑定表△ 朝鮮鑛業令△
四六版 二百五十頁
並製金一圓廿錢 上製金一圓四十錢
送料六錢
發行所 ウツボヤ書籍店

朝鮮總督府編 朝鮮鑛物調査書 四六判洋裝 定價九十錢 送料六錢
前東京高商教授 中央大學講師 石川文太郎 古市太郎共著 改訂朝鮮商業提要 三月一日發行 改正定價八十錢 送料八錢
常平廳主人閱 朝鮮錢貨價格圖鑑 近刊
朝鮮學術研究會編 朝鮮商業 文學全書 四六判二百頁 定價五十錢 送料六錢
發賣元 京城太平通一丁目 振替京城一〇〇番 巖松堂 日韓書房
大賣捌 大阪屋號 京城日報社代理部

南滿洲鐵道株式會社
安東驛 朝鮮各線驛 より大阪神戶行貨物連帶運送
荷主の福音
朝鮮 大阪神戶間
船車連絡開始
鐵道院關釜連絡船貨物取扱
日本船主同盟會所屬船舶元扱
對馬汽船運輸株式會社元扱
神戶上屋火災運送保險株式會社代理店
石炭セメント火炭
釜山 艀船曳船船舶仲立取扱
滯貨の一掃
Ⓢ
澤山兄弟商會
電話 七五〇 六〇八 一〇八番 電信略號サワ
大連 神戶 出張所
其他各地代理店

比類なき 空前の大著
文例一千三百餘種 用語
新體 美文 手紙文庫
全五卷完成 合本
春の卷 夏の卷 秋の卷 冬の卷 雜の卷
內容 特色
手紙文庫刊行會
振替東京一〇四八六番
進呈

第四十回帝國議會（東京特電）

貴族院（六日）

▲徵兵令委員會

貴族院の徵兵令中改正法律案委員會は六日午前十時開會林委員長以下出席討議に入り江木千之氏の賛成ありて木場貞長氏より左の二項を委員會の希望として決議せられたしと提議し（一）一年志願兵及び一年現役兵の入營は春期に於てせられたし（二）一年志願兵の教育は成る可く名譽に現役中に於て完成せしめられん事を望む猶ほ豫備役にて補充的の教養の已むを得ずとすれば其の期間は成る可く短縮する様講究せられ度しと述べ異議無く決定次で伊東義五郎男より下級の船員に對して海軍に於て軍事教育を施し之れを海軍の豫備兵とせられ度しと述べ之れも本委員會の希望として可決し採決に入り全會一致可決零時散會せり

▲請願委員會

六日午前十時三十分開會細川委員長以下各委員出席各分科主査より採否件名の報告あり審査の上採否決定正午散會せり採擇せしもの左の如し

一、帝國在郷軍人會國庫補助の件

衆議院（六日）

▲分科會と委員會

衆議院にては六日午前十時より豫算各分科會、小學校教員俸給國庫負擔法案、東京京都兩大學臨時支出金に關する法律案、東邦調查局設置に關する建議案、輸出絹織物檢查所設置に關する建議案の委員會を開催、午後一時より增廢稅委員會、午後二時より鐵道敷設法中改正案委員會を開催せり

▲第二分科會

朝鮮特別會計

衆議院豫算第三分科會は六日午前十時開會、特別會計朝鮮總督府所管の質問に入りたるが先づ山縣政務總監より說明ありたる後

▽鈴木梅四郎氏（國民）朝鮮の土地調查は內地同樣完備せりや

▽鈴木度支部長官　總督府は明治四十三年度より[illegible]の經費を支出し事業として[illegible]大正[illegible]年度に完了したる[illegible]

▽鈴木梅四郎氏　朝鮮に於ける市街地は時價に依り市街地以外は[illegible]

▽鈴木度支部長官　官有林野及び官有耕地の三種あり官有耕地は[illegible]

▽鈴木梅四郎氏　[illegible]山林經營に就き施設せる所如何

▽鈴木度支部長官　[illegible]山林を貸下ぐる外森林の法を設けて[illegible]

▽鈴木梅四郎氏　朝鮮に於ける道路港灣鐵道の關係如何

▽鈴木度支部長官　交通機關の整備は併合後に於ける重要施設の一にして鐵道に對しては併合後六千三百萬圓を投じ[illegible]千九十二哩を敷設し既に[illegible]道路は[illegible]港灣は釜山、元山、仁川、鎭南浦を重なるものとし其他の港灣も相當設備を加へたりと答へ正午休憩したり

▲事業費公債委員會

大邱光州線建設計上さる

朝鮮事業公債委員會は六日午後一時十五分開會鈴木政府委員より朝鮮事業公債大正七年度以降平等に七千一百萬圓を加へたるは鐵道建設及び改修費にして其の主なるものは大邱より光州に至る鐵道建設費なりと說明し川崎克氏[illegible]

◎各派增廢稅態度決定

增廢稅委員は一哩十一萬七千[illegible]

[illegible]（政友會）より數字を明示せる書面を要求し鈴木政府委員は[illegible]提出す可しと述べ鈴木錠藏氏（政友）の質問に對し鈴木政府[illegible]

▲政友會

政友會にては五日正午[illegible]增廢稅委員協議會を開き[illegible]日に就き逐次審議結局戰時利得稅は課稅の最低限度を[illegible]と共に植民地にも內地同樣施行せしむる趣旨を以て其[illegible]に一任すること、酒造稅法改正は改正案の通り[illegible]上を現行法の百石以上に改むる事所得稅法改正は[illegible]を防止して負擔の公平を期[illegible]に收入の增加[illegible]をなすことに決定[illegible]

▲憲政會

[illegible]の方針に關する協議[illegible]結果を報告し[illegible]

憲政會にては五日午後二時本部に於て豫算委員增廢稅委員聯合協議會を開き豫算に對する態度を決定せるが國防計畫は承認し[illegible]年度から殘餘の三千[illegible]防充實費に充て政府提案の增廢稅案は戰時利得稅を修正承認す[illegible]外全部反對すること、し其修正意見としては政府自ら原案を撤回し[illegible]地と內地との間賦課の不公平なき様修正すべしと云ふにあり

▲國民黨

國民黨にては五日午後二時本部に於て豫算委員增廢稅委員聯合會議を開き戰時利得稅新設、所得稅改正、酒造稅改正、通行稅、石油消費稅廢止に對しては大體賛成其他の稅法案には反對の態度を取ることに決定せり

▲新政會

新政會にては五日午後二時帝國ホテルにて代議士總會開會、政府の國防計畫は承認し戰時利[illegible]

◎兩派交涉

增廢減稅案に就て

[illegible]

◎佛國へ東清鐵讓渡

或は事實か　哈市の觀測

[illegible]鐵道とは勿論東清鐵道を指すものにして[illegible]佛國の資本より成れる露清銀行は佛國に讓渡さんとするは全く根據なきことにあらずと[illegible]當地にては一般に此の風說を重要視せり（哈爾賓特電）

◎極東委員會獨立

[illegible]極東委員會[illegible]に關する命令を發し勞働者、兵士、農民より各六名[illegible]樺太より各二名宛より一名の代表者を選出し獨立せる政務[illegible]の執行に當らしむるに決せるが右は（一）極東委員會は立法會議を承認す（二）過激派政府の命令は本會の承認を經ざれば其効力なき旨を聲明せり（哈爾賓特電）

◎支那司令官警告

[illegible]の支那軍隊司令官は露領地方組合及び市役所に對し次の如き警告を發せり、若し露領地方に於ける支那人及び外國人の保護に對し相當の方法を講ぜざれば武力を以てブラゴエスチエンスク其他支那人の多數居住せる地點を占領すべしと（哈爾賓特電）

◎獨政府罷業者高壓

違反者は死刑に處さる

伯林よりの報道に依れば獨逸政府は同盟罷業者と交涉を拒絕し四日再び業務を開始す可き事之に違反せる時は軍法會議に附す可き事を命令せり第一回軍法會議は二日開催されたるも其結果は不明なり同會議は違反者に對しては二十四時間內に死刑を宣告するの權能を附與せられたり（倫敦電報）

◎鮮米好評

[illegible]

◎兌換洋票

發行方請願す

[illegible]

◎鮮米の聲價問題

何故に木浦米は優秀なるか

[illegible]

◎養蠶規定發布

[illegible]

◎勸業技術員會同

[illegible]

◎美濃部總裁東上

[illegible]

▲傭船界も閑散

[illegible]

▲棉花相場次第

[illegible]

▲二十圓の利益

[illegible]

帝國生命保險株式會社　[illegible]

朝鮮總督府

朝鮮彙報　二月號　[illegible]

▲朝鮮の[illegible]　▲地價綱要　▲任用[illegible]　▲在鄕軍人會[illegible]

取扱　ウツボヤ書籍店

入學準備者の為め　[illegible]

京城日報代理部

周易高島易斷　[illegible]

▽流行燈籠　特價金九圓也　[illegible]　京城日報社代理部

[illegible]　目錄呈進　發行所　大野萬歲館　[illegible]

住宅問題

▽理想的の防火の設備
宣政殿は何故焼けなかつた
東京の岩崎長屋と防火壁

京畿道警務部消防主任 小熊警部談

家屋を建築するに當つて最も注意せねばならぬのは防寒、防火、衛生の三者であるが私は職掌柄防火に就いて一言述べて見たいと思ふ大正二年總督府令として發布された建築取締規則には長屋建には二十間以内に防火壁を設ける事になつて居るが長屋建でない場合は此の適用を受けない只警察署に於て必要と認めた時は防火壁を設備せしむるやう命令を發し得る事になつて居るが市民各自が

▽防火設備に關しては連帯の責任

ある事を自覺して官の指令に接せずとも自發的に防火壁を設けなければならぬと思ふ防火壁は屋上に一尺五寸乃至三尺突出した上に防火壁の袖を出せば理想的である昨年永樂町の火災の際上田寫眞屋には防火壁があつたゝめ類燒を免れたが其の裏に當る家には飛火がして延燒した實例は世人の記憶に新しい事であらう又昌德宮炎上の際も內殿から宣政殿に至る廊下の出入口に不完全乍ら煉瓦の塀壁があつたゝめ猛火を喰止め宣政殿をして祝融氏の蹂躙に委せなかつたなど擧げ來れば防火壁の消防上に於ける効果は多大なるものである事が窺はれるであらう

▽仁川停車場附近や日本公園の下

などには外國人所有の貸長家に一軒毎に防火壁を設けてあるがあゝして置けば假令出火しても延燒する處はない流石に外國人は用意周到であると感心したが東京でも神田の岩崎長屋は一家毎に防火壁があつて度々出火すながいつも一戸丈けで消止める事が出來て居る樣である、此れは單に長屋許りでなく一戸建の建築にも極めて必要缺く可らざるものであるから我々消防に從事するものは將來新築せんとする人々に對して防火壁を設備さるゝやう奬勵したいのである。

▽屋上制限は內地人家屋にのみ適用

建築取締規則中[illegible]されて居るが此れは屋上を不燃質物例ち瓦などで葺くのであつて延燒に對する防禦力は大なる者がある之に伴つて火災に際して最も火の移り易い軒、蛇腹、羽目、庇などの間隙には土或はセメントを以て塞ぐやうにし出來得る限り不燃質を以て包むやうにしたならば火の廻りを防ぐ事が出來る現に大正五年の若草町の大火の際は『藏そば』で火が消わる見込みで消防に努力して居たが軒や庇に間隙があつた爲め火焔は其の間隙から侵入し外部から見る事が出來ぬ間に內部に燃擴がり遂に三四戸を延燒せしめた上

▽燒けない家の路地から注水して

幸うじて鎮火せしめた實驗もある一般防禦上の原則として家屋の高さを道路の幅と同程度以上にして[illegible]は不可い事となつて居り空地も建坪と同じ面積以上にするのが理想的であるが經濟上と土地の關係上到底斯る事を望む事は出來ない以上出來得る限り家と家の間隙を大きくし軒、蛇腹羽、庇等からの延燒を防ぐやうにしたい(續き)

水温む 【四日東大門外にて】

高井文學士

私立延禧專門學校教授文學士高井直貞氏は夕刊所報の如く六日の未明旭町一丁目の自宅に於て不慮の火のため僅かに永眠せり。享年四十八實に惜むべきなり。氏は明治四年東京府に生れ第一高等學校を經て東京帝國大學文科大學史學科に入り明治三十四年卒業後は私立青山女學院私立東京學院に教鞭を執り、大正四年九月私立延禧專門學校の創立せらるゝや同校の教授となり以て今日に至れり。氏は最も熱心なる基督教信者にして頗る同情に富み其の專門とする史學の外に英語に能く、渡鮮後は總督府と宣教師團との間に立ちて常に其の意志の疎通を計り、又創立に際しては財團法人の組織につき氏の斡旋する所少からず其

功勞特記すべきものあり。昨秋來執拗なる神經衰弱に惱みて[illegible]病院の治療を受け昨今漸く恢復したれば近く出勤して大いに活動すべしとの意を友人に語り教授の準備に怠りなかりき[illegible]通り日本基督教組合教會にて執行の筈。因に出火の際料理屋日本力にては直に馳けつけて家族を助け出し手厚き介抱を加へたる由にて見舞の人々は少からず其厚意に動かされたりと

▽丹羽清次郎氏談

丹羽清次郎氏を訪へば『高井は能く夜眠られぬため夜中に讀書をするのが例になつて居た所が此の讀書の時やゝもすると忽ち昏睡狀態に陥るので机に突つ伏して前後不覺になる事がある其れが爲め進退の自由を失して逃げ場を失つたので(あるまいか)』と愁然として記者に語つた

◎佛國軍器製造 工場爆發

佛國モーランの軍器製造工場爆發し死傷四百四十名を出せり(倫敦電)

◎火藥爆發 八名重輕傷

[illegible]鑛山坑夫[illegible]八名重輕傷[illegible]

◎那覇丸發見

[illegible]

◎大連の火事

五日午前三時大連寺岐町ヲ臨四十號地支那人雜貨商馬亮卿方より出火四時鎮火せり燒失家屋二戸損害[illegible]支那人三名燒死せり(大連特電)

◎罠で虎を捕ふ

咸北茂山郡西下面臨江洞金學俊は數年前より害獸驅除の爲め高さ三尺、二間四方の大罠を茂山街道より山奥に入りたる所に設け捕獲しつゝあり本年も舊臘十二月末より搬夜犬を繋ぎて餌とし捕獲に從事せるが去る十七日夜虎一頭を捕獲せり此の虎は胴長四尺餘にして尾の長さ二尺五寸あり胴廻りは三尺八寸餘の大虎にして價格三百圓を唱へ居れりと

◎皮八十八枚

京城明治町一丁目元武吉(二三)東亞根(二〇)の兩名は太平町通二丁目皮革商西田與二郎方に雇はれ中同家の倉庫より皮革八十八枚此の價額百六十八圓のものを盗み出し酒食の資に費消せる事發覺し鍾路署の手に捕はる

◎小兒の屍體

[illegible]

◎土砂の下敷に

[illegible]

◎電線を盜む

京城黃金町三丁目井化圭方勵錫(二三)は仁寺洞の京城電氣會社發電所構內へ忍び入り電線其他を竊取して本町署の手に取押へらる

◎京中武道大會

京城中學校にては九日午前九時より同校講堂に於て第六回武道大會を擧行する由なるが同日は警務總監部、龍山憲兵隊其の他各警察署より多數の猛者が出席する由

學校めぐり

▽鍾路小學校

補習科では商業的實地的學問を教ふ

京城鍾路公立尋常高等小學校は京城居留民團[illegible]

[illegible]

◇盆景の趣味
△新らしい流行

[illegible]

◇此の博山香爐といふ

[illegible]

◇の博山は則ち今の盆景

[illegible]

◇流行したものである

[illegible]

◇宮中に於て盛んに

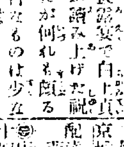
[illegible]

◇廢れて了つた所が

[illegible]

◇此の流行も何時しか

[illegible]



△演藝[illegible]

△浪花節 京城[illegible]

△新派[illegible]

●正誤 二月五日第三千七百二十七號第二面街道で刑事と大捕物の記事中井上方酌伏云々とあるは其筋乗合たる誤りにて全く相當無之候に付本文御掲示の上御正誤被下度此段及御願候也 黃金町四丁目井上八十七

京日案內

◎寫眞技師入用 [illegible]

◎店員入用 [illegible]

◎給仕採用 [illegible]

◎人參賣子入用 [illegible]

◎測量手入用 [illegible]

◎代診生募集 [illegible]

◎壽犬 [illegible]

◎鑛物定量分析 坂元分析所

オキシヘーラー [illegible]

◎ほねつぎ 明治町 柔術道場

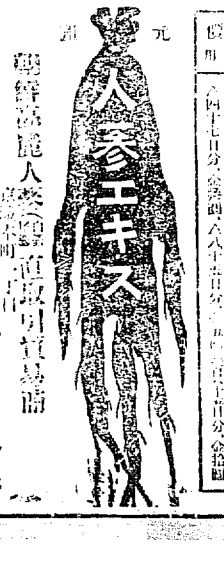
恩給年金立替 京城若草町 國江商會

八角印のヘブリン [illegible]

營業品目
肥料部 蒸製骨粉、乾魚、骨角粉、星印配合肥料、細工用地骨、細工用骨角各種膠及膠原料
石鹸部 化粧用石鹸、工業用、家庭用石鹸、浮石鹸、粉末石鹸、牛脂、椰子油、鯨油、其他油脂類、苛性曹達、洗曹達
京城東大門外 朝鮮肥料製造所 朝日石鹸製造所

滿天下の賞讚を博したる人參エキス
朝鮮高麗人參直取引賣捌所
津村兄弟商會
本村藥舖 北岡藥舖 大邱支店

品質優良藥効の顯著なる人參エキス



京城永樂町二丁目 酒井婦人病院 院長 酒井一郎

京城日報社代理部

資本金壹千萬圓
株式會社百三十銀行京城支店

櫻御殿

第百四十四回 大阪 殿の家主人

寢月（二）

有村左膳と名乘る初瀨と、宗之助と呼ばれて居る宗藏と、初瀨に命懸の戀をして、甫しく同じ道を行く桐島とは、此の時紀州街道の裏の百姓家で、急病の手當をして居た

三日市の驛に[illegible]、風く出發すると、途中で急病に取り付かれたは初瀨であつた、一里[illegible]茶店の厄介になつて、少し快い方へ向いたので、桐島と宗藏とが左右から勞はつて、兎も角も[illegible]でと思ひたから出かけたが、[illegible]上り詰めた頃から、また恐しく痛み詰めて、遂に歩行も爲きなくなつた、由て宗藏が背に負つてやつと茲まで辿り付いて、只ある百姓家の奥座敷へ扶け入れた、[illegible]の一里餘の所なれど、見る蔭もない片田舍で、近所には醫者もない、一服の藥をする便宜も無い

桐島は、とゝが心切の見せどころ、と思ふように、厭はず枕頭に付き切つて、及ぶだけの介抱をする

『何か、召し喫つては如何でございます、大分お熱も退いたようでございます』

初瀨は[illegible]たまゝ、落ち込んだ目に桐島を見て

『甚う御造作に相成つた。この御恩は忘れませんぞ』

『そんな他人行儀を被仰るものぢやありません、斯うして御同道を致すのも、前世からの因縁でござりませう、御遠慮なく御用を仰せ付け下さいまし』

『何も欲しくはない、まだ胸が痛い、[illegible]致す』

『では胸をお擦り申しませう[illegible]』

[illegible]

『御免遊ばしませ』と桐島は[illegible]るようにして『お擦り申しては[illegible]致すのでございますか』

『[illegible]捨つて可ければ此方からお頼み申す、決して側へお寄り下さるな』

心切が餘つて爲ることさへ、どうかすると機嫌を損じる、桐島は[illegible]と涙を流して

『どうも濟みません、お恕し下さいまし』

『お前さまは不作法ぢや、漫に他人の肌へ觸けるものぢやござらぬぞ』

初瀨は、自分が婦人であることを、桐島に覺られまいと用心して嚴しく云ふ、さうした秘密が戀人にあらうとは[illegible]、桐島は此れほどに思ふ心切の通かぬのが口惜しくもありまた情なくもあつた、袖を噛んで堪へ忍ぶ

『またお間違ひでございますか、どうもあなた方には困ります』

宗藏は斯う云つて入つて來た、手に藥茶碗を持つて居る

『お藥でございますか』

桐島は嬉しさうに云つた

『やつとお藥が手廻りました、買藥を致すにも、[illegible]の市街まで參らねばなりません』

『どうも御苦勞樣でございました』と桐島は遠慮勝ちに顔を覗いて、『お藥でございます、お喫りになりますか』

『宗之助、御苦勞であつたの』

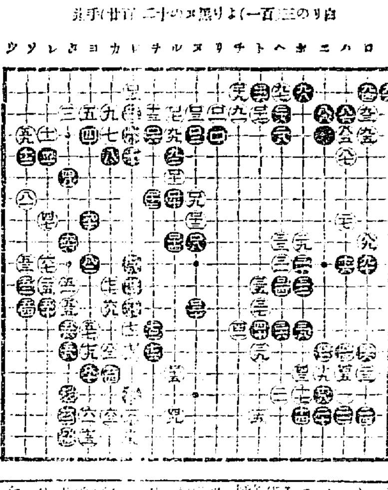
『いえ、何う致しまして、これを[illegible]』

碁戰

十番碁第五局の六

三段 平山寄氏　二子 大久保彦彦氏

自百三十一至百五十二（二十二手）



下關期米

△六日後場 當限寄付[illegible]を押し二節中綬ら先〆九錢より六錢と押したるも大阪小高き入電にて十二錢と跳ね四節に至り更に十五錢と伸び强硬に打止めたり

七錢八錢二節〆九錢七錢六錢七錢 八錢六錢十錢一錢二節〆九錢二錢 一錢二錢一錢二錢一錢三節十 四錢五錢三錢四錢四節十二錢三錢

平均値段 一節 二十一圓〆五錢　二節 二十一圓〆九錢　三節 二十一圓十二錢　四節 二十一圓十四錢

日報俳壇

冬季雜詠

水鳥や枝河岸の一ツ家　森象

冬着石のゴケラや石屋町　同

枯菊を焚しけり母の眼鏡かな　同

菊枯れて海瑠寒き座敷かな　同

枯野中に夜なべしき工場哉　ただ女

[illegible]

淺昔小集

（一月四日夜）

[illegible]

讀者の領分

[illegible]

パインビジネスペン

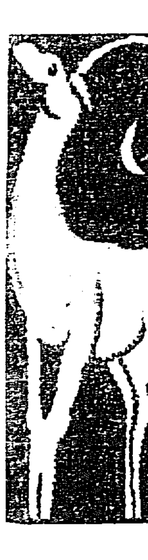
最好評の經濟的事務用（金ペン付）定價一圓九拾五錢 京城日報社代理部

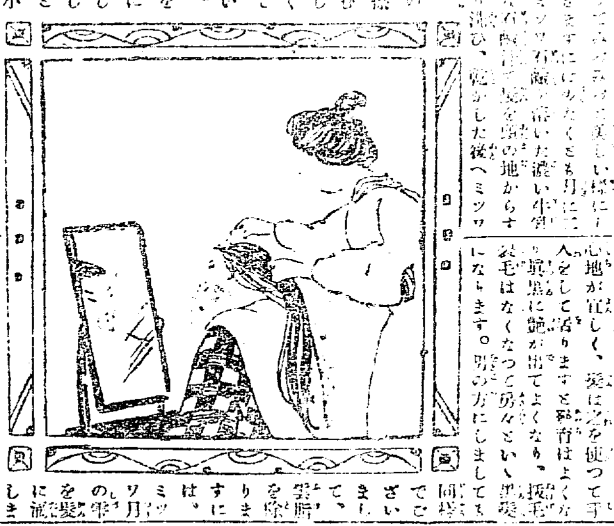
頭の地を淸くする事

（ミツワ文庫 七二）

市川段四郎談

[illegible]





[illegible]お湯の中でミツワ石鹸を溶きます。此の牛乳の樣になつた石鹸汁の中へ頭の地が浸りきる樣にして[illegible]先づ小櫛にとう[illegible]、ツブラシで髮の毛を分けて石鹸汁を浸した刷毛で、頭の地をすつと一わたり擦り、それから石鹸汁に浸しました刷毛で毛の生ひなりに擦し流しましてあとをお湯で石鹸けのないまでに洗ひ流します。

此の刷毛で擦りますと、過度の脂は除れ芳香はよく毛髮はいゝ艶になります。髮を洗ひますには、短かくしてらつしやる方なら御婦人方と同じ方法で洗ひ、乾かしました後へはミツワ椿油をお使ひになりますことは一樣におすゝめいたします。

ヒゲタ醬油

銚子港 田中玄蕃釀造

代理店 發賣元 櫻正宗 京城明治町一丁目 山邑京城支店 電話八四九番 振替貯金京城七五番

內科 胃腸病

診察夜九時迄 京城本町一丁目 石川醫院 電話一二七九〇九番

廣告代理業 大阪高麗橋四丁目 萬年社 支店・東京・京都

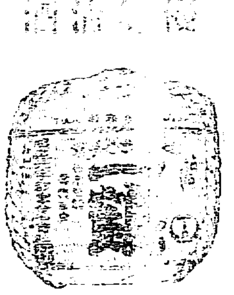
[illegible]

內科小兒科 外科

呼吸器 胃腸病 整形外科 婦人科 肛門病 梅毒淋病 皮膚 わきが 入院隨意

京城本町五丁目 大和病院 電話二〇三

院長 醫學士 齋[illegible] 副院長 醫學士 小川[illegible] 副院長 [illegible]



發賣元 本東酒店 電話 六五 [illegible]

美馬天地眼來る

如何なる者か

[illegible]

京城本町 山本旅館

軍隊拂下品

京城北米倉町 村上商店

りん病 ばい毒

ドラッグ商會本部

京城永樂町

朝鮮郵船

大阪商船株式會社 汽船出帆廣告

尼崎汽船

日本郵船

釜山出帆廣告

共同汽船

[illegible]